
無題（テーマ・音楽）

Bernkastel

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題（テーマ・音楽）

【Nコード】

N9229P

【作者名】

Bernkastel

【あらすじ】

吹奏楽部に入っている、高校二年の小野寺真由。なかなか腕が上がらず四苦八苦しているが、ある日——とある日のささやかなお話。

(前書き)

センター国語の去年の過去問で吹奏楽部の話が載っていたので、う
ずうずして書いてしまいました。拙い文章ですが、どうかご容赦く
ださいますよう、お願いいたします。 m () m

※追伸 11/10に微修正

私は、河川敷の丘に座っていた。

時折肩もとの髪を揺らす風が、なんとも心地いい。

川は、音もなくゆるやかに流れていた。

どうしてこんなところに来たんだっけ？……ああ、そっか。ブラバンの合同練習の時に、私だけ楽譜間違えて吹いて、恥ずかしくなつて抜け出してきたんだっけか。

……私が間違った時のみんなのあの顔。信じられないって顔だったよね。

静寂がやけにつらかったなあ。皆一斉にこっち向くんだもの。

ま、悪いのは私なんだけどさ。

……………。

……やることないや。ていうか、何もしたくないけど。

ぼーっと何気なく対岸を見ると、子供たちが元気に遊んでいた。

苦勞を知らない子たちは羨ましいな、と思う反面、これから苦勞を知るのだとおもうと、なんだか切ない。

頑張れよ、君たち。

意味もなく、心の中で応援してみる。

「————あれ？真由じゃない？何してるのこんなところで。今日は部活の練習あるんじゃない？なかったっけ？」

不意に、後ろから声がかかる。

私の親友、広田智子である。今日は自転車でのお出ましだ。

「うん、今日はちょっと休み」

抜け出してきたなんて口が裂けても言えない。

「そんなこと言って。また抜け出してきたんじゃないの？」

智子は私の隣に座った。

ありやうや、見抜かれましたか……。

まあ、この子は私と違って人を良く見てるから今更不思議じゃないけどね。

「本当のこと言うとなんだけ……今はなんかそれどころじゃなくて」

「それどころじゃないって？」

「それは……」そう言いかけて詰まってしまう。

——私が抜け出してきたのは、パート練でさえもへたくそで、シロウト感丸出しの自分に嫌気がさした……ともいえるが、本音はそうじゃないような気がする。

「————私の吹く音ってさ……皆にどういう風に響いてるのかな？」

そう、これだ。これが知りたかったんだ。

「どういう意味？」

「合奏ってさ、全部の楽器が合わさってるわけじゃない。普通楽器一つ一つの音まで聴き分ける人なんていないだろうし。でもさ、一人音間違えると、それだけでその人が際立っちゃっていい演奏にならないわけ。音楽は調和が命とかいうけど、調和がとれた状態って

どんな感じなんだろう。同じ音がいくつも組み合わせたって、その中にいる私はどんな存在なんだろう……?」

そこまで言って、あまりにも饒舌にしゃべりすぎている自分に気づく。

……おかしいな、普段はこんなじゃないのに。

「……うーんとき、考えすぎじゃないの? まずは何も考えずに、吹くことだけに集中してみたら?」

……………。

うん、なんか納得。

智子はブラバンに入っているわけでもないのに、決まって気の利いた発言をする。

これだから、生徒会に推薦されてもおかしくないのだ。

「真由たちが演奏する曲ってどんな曲?」

「最初はかなり重いんだけど、徐々にテンポのいい感じの曲になって、マーチっぽく終わる」

自分はその主旋律を口で歌って聞かせた。

「なかなかいい曲だね。真由のパートは?」

「最初にちょっと出て、中盤は結構休んで、最後はほとんど吹きっぱなし」

自分はトランペットという、実にオーソドックスなパートを務めているが、トランペットは音が外れたりするとモロに気づかれてしまう、かなりリスクの高い楽器なのだ。

そのことに入部してから気づき、今なお後悔している。なんで安易にそんな楽器を選んだんだ、と。

—————ホントのところ、ブラバンに入ったのは友達の勧めだったのだが、その友達はずいぶん突然辞めてしまった。

だから、本当の意味で私がブラバンにいる意義という物が存在しない。

練習に身が入らないのもそのため……なのだろうか？

……ただ、音楽は好き。昔から。それは今でもゆるぎない。

自分が意義を失って、それでもなおやめないのは……そういう思いが強いからなのだと、そう信じたい。

「真由ってさ、声もきれいだっただね。初めて気づいたよ」

「へ？」

不意打ちだった。なぜか顔が赤くなる。いかん、落ち着け私！

「あはは、照れちゃって。真由ってそういうところかわいいよね」

は？何をおっしゃっているんですか？私が、この私が、かわいい！？

いやいやいや！一年に何千というファンレターもらっているあなたと比べたら、そりゃあもう雲泥の差がありますよ！？

「大丈夫。真由もいいところあるんだからさ、自信もちなよ」

……………。

ほんとに……頼もしいなあ、この子は。

……智子は、一度大事故に遭った。重体に陥ったものの、何とか助かった。だが、彼女以外の家族は全員お亡くなりになられたとか――

それで、“自分の身近から突然命が失われていく恐怖を知った。これからは人にもっと気を使うようになりたい”だとかいう、なんとも頼もしい弔辞を読み上げたんだとか。

そしてその頃から、「自分が悲しい顔をする、ほかの人も悲しい思いになる」などと言って笑顔を絶やさなくなった。しかし、

私にはその笑顔が逆に痛々しく見えてしまう。

でも、だとしても————彼女には笑ってほしい。

彼女には、笑顔がよく似合う。

だから私は、こう答える。

「智子もね」

ありがと、と笑って返す。

本日、最高の笑みだった。

私は、不意に河川敷に寝そべって空を見上げる。今日は、快晴。

雲一つない空は奥行きがなく、近いとも、遠いとも言い難い。

ただ、その空を眺めていたらなんとなく心が晴々して、元気が出てきた。

「よし、今度は頑張ってみますか！」

「うんうん、その調子」

「でも今日は——」

今日だけは、一緒に帰ってもいいよね？

今日という日を、心の中に焼き付けておきたいから。

（後書き）

気づいたんですけど、私短編を書く方が性に合っているみたいです。
ええもちろん、長編にも挑戦してみるつもりですが。

誤字、感想等お待ちしております。 m () m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9229p/>

無題（テーマ・音楽）

2011年11月13日12時03分発行